

	<p>[例]</p> <pre> 6 ASSIGN 100 TO K GO TO K, (100, 50, 150) </pre> <p>Kの値に100が割当てられて GO TO 100と同じことになる。</p> <pre> 6 ASSIGN 50 TO K GO TO K, (100, 50, 150) </pre> <p>Kの値に50が割当てられて GO TO 50と同じことになる。</p> <pre> 6 ASSIGN 150 TO K GO TO K, (100, 50, 150) </pre> <p>Kの値に150が割当てられて GO TO 150と同じことになる。</p>
<p>6-3 計算形 GO TO 文 (computed GO TO statement)</p>	<p>一般形 $\boxed{\text{GO TO } (n_1, n_2, n_3, \dots, n_m), i}$</p> <p>ここに、$n_1, n_2, n_3, \dots, n_m$ は文の番号であり、i は整変数 (添字つき変数は不可) である。</p> <p>この文では、変数 i の値により、文の番号 $n_1, n_2, n_3, \dots, n_m$ のいずれかへ分岐する。この場合の変数 i の値は、割当て形 GO TO 文の場合と異なり、ASSIGN文により与えられるのではなく、算術代入文などで決めてやればよい。ただし、i の値は1以上であり、m (カッコ内に書かれた文の番号の個数) 以下でなくてはならない。</p> <p>この文はつぎのような働きをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 変数 i の値が、1のとき、GO TO n_1 と同じ効果である。 (2) 変数 i の値が、2のとき、GO TO n_2 と同じ効果である。 (3) 以下同様に、変数 i の値が、m のとき、GO TO n_m と同じ効果である。 <p>[例]</p> <pre> GO TO (100, 50, 150), I Iの値が1のとき GO TO 100 " 2 " GO TO 50 " 3 " GO TO 150 </pre> <p>と同じことになる。</p>
<p>6-4 算術 IF 文 (arithmetic IF statement)</p>	<p>一般形 $\boxed{\text{IF (AE) } n_1, n_2, n_3}$</p> <p>ここに、AEは算術式 (arithmetic expression) であり、n_1, n_2, n_3 は文の番号である。ただし、この文に与えられる算術式の型は、整数型か、実数型か、倍精度実数型のいずれかでなければならない。</p>